

第3回ソーシャルイベント研究会 レポート

■日 時 平成25年10月11日(金) 16:00~18:00

■会 場 日本イベント産業振興協会 会議室

■内 容

- ・研究会の趣旨と進捗状況報告
- ・プレゼンテーション
鈴木純子 田畑伴和 澤内隆 宮地克昌
- ・事例発表／小島 敏明
『地域におけるソーシャル・イノベーションの現状』
- ・今後のスケジュール



【出席者】 14名

座長：小林政則（イベント支援ネットワーク）

内田なお子（昭栄プリント）、大根田利夫（ダーツ）、加藤淑子（エンコーポレーション）

小島敏明（乃村工芸社）、澤内隆（帝國書院/文教大学）、鈴木純子（日本リ・ファッション協会）

瀬良槇也（アサツー ディ・ケイ）、田中滋（DEN&A）、田畑伴和（似顔絵作家）

手島秀吉（ネルソン スペース ジェイ）、宮地克昌（東京観光専門学校）

〔事務局〕 小西功一、菊地浩之

■ソーシャルイベント研究会の進捗状況（小林座長）

この研究会は月1回のペースで実施し、参加する会員の研究や事例の発表を通じて研究活動を広げていく。同時に実務者会員のビジネスネットワークを拡充することも大きな狙いとしている。現在15件の「勝手にプロポーザル」のエントリーシートが学会Webに集まっているが、質量ともに研究内容を充実させながら様々な集客施設や公共団体等に提案していきたい。

■プレゼンテーション（1人15分）

1) 鈴木純子会員（日本リ・ファッション協会）

『リ・ファッション マーケット 2013 秋』

ムダの多い社会に疑問を感じ、循環型社会適応型のライフスタイルの提案を目指して当協会を立ち上げた。今年初めて自主事業「リ・ファッション マーケット 2013 秋」を10月16日～21日、目黒の「ギャラリーやさい予感」で開催する。テーマは「布物語」。当協会の活動を楽しみながら知っていただくことが目的。プロのデザイナー等によるセレクトショップ、ギャラリーコーナー、布などの素材販売、ワークショップ、19日にはトークイベントも実施する。また、この研究会のメンバーの大根田さんをお願いして、布を使った缶バッジのデモンストレーションも計画している。



今後はショッピングセンターの古衣類回収コーナーなどで リ・ファッションのワークショップを開き、こども達にファ

ッションの楽しさを伝え、シゴト体感もして欲しいと願っている。「服育」というコンセプトを大切に、ファミリーが来るスペースで活動を展開していきたい。

——小林座長

10月7日に荒川区の関係者に「勝手にプロポーズ」を提案したところ、リ・ファッションやママの支援、こどものファッションショーに非常に関心を持っていただいた。今回の「リ・ファッションマーケット」にも訪問する予定とのことだった。荒川区には繊維街があるので地域振興の観点からも引き続き積極的に提案していただきたい。

2) 田畑伴和(似顔絵作家)

『似顔絵イベント三本の矢』

① ○○の顔展

東京タワーのイベントとして毎年「今年の顔展」を実施している。

来場客から今年印象深かった有名人のアンケートを取って上位者を我々が描いて年末に発表する。この発展形として「トップアスリートの顔展」や「地域に所縁のある人の顔展」など、様々なイベントを開催したい。

② 似顔絵ワールドカップ

来年のFIFAワールドカップにちなみ、サッカー選手の似顔絵をパブリックビューイング会場などに置き、サポーターがメッセージを書き込むようなイベントを開催したい。世界中の似顔絵アーティストから、サッカー選手の面白い作品を公募してみたい。

③ 似顔絵世界大会

アメリカの国際似顔絵協会が母体となり、毎年世界大会を行い4日間程度の期間でお互いを描きあって優れた作品を表彰している。3年前は私が実行委員長となり大阪で日本大会を開催し、似顔絵描きだけではなく一般の人でも参加できるようなオープンなイベントを行った。2014年の2月中旬には名古屋のセントレアに併設されたショッピングモールで世界大会が実施される。地元の常滑市民を巻き込み「似顔絵1000人描きます」というような大きな企画を打つ予定。



——小林座長

名古屋では場所の提供等、どこが支援しているのか？イベントの構造も教えて欲しい。

【田畑】

会場は無料でセントレアからお借りする。「似顔絵1000人描きます」と1人500円で描き、ショッピングモールに人を集めることが前提になっている。この収益から経費を差し引いた金額を、東北の復興支援として募金する形になっている。

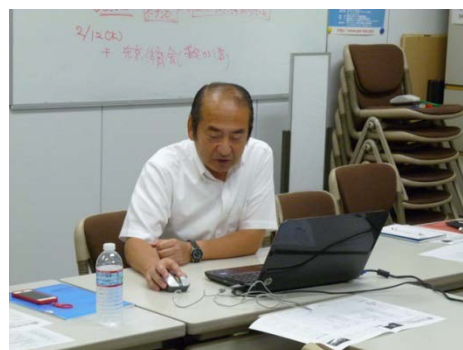
3) 澤内隆(帝國書院/文教大学)

『山武市応援企画』

東京タワーの「大船渡さんま祭」に醤油を無料で提供していただいた大高醤油のある、千葉県山武市の市長、副市長に10月16日(水)にプレゼンに行くことになった。その前に研究会の皆さんに見ていただき意見をいただきたい。

おもな提案内容／お金をかけないアイデア企画、今ある資源を活用する

・生家のある伊藤左千夫にちなんだツアー ・B 級グルメの太巻きの太さ日本一への挑戦 ・4 つの地酒をマイグラスで飲み比べ ・食虫植物を活用した企画 ・大高醤油を活用した企画 ・災害防災協定を締結する大船渡市とのコラボレーション ・名産の苺や山武杉を活用したイベント ・キンサロでのプレゼン提案 ・山武市でのサロン実施 ・イベント学会観光イベント研究会構想 等



——小林座長

山武市に「勝手にプロポーザル」をぜひご提案願いたい。メンバーの皆さんの所縁のある自治体や集客空間などにも、積極的なプロポーザルをお願いしたい。

4) 宮地克昌（東京観光専門学校）

「歴史の駅」の提案を行っている。今回は江戸を中心につくられた花の名所に行くタイムトラベルを紹介する。将来的にはゴーグルでバーチャルな景色が見えるような構想を記事にしたのでご一読いただきたい。私が理事をしている公園財団で管理している国営公園について、この研究会を通じて色々な企画が提案できると思うので、別の機会にどこにどのような施設があるのか改めてご説明したい。その他、全国の JA に向けた提案も面白いと思う。



■事例紹介(60分) 小島敏明（乃村工芸社）

『地域におけるソーシャル・イノベーションの現状』

ソーシャルイベントの意義とは

イベントの手法を活用して、個益を訴求しながら公益を実現する部分が最も重要ではないかと考えている。個人と公の両面に利益があることがソーシャルイベントの重要なポイントになる。社会を変えることは地域を変えることであり、自治体に対してソーシャルイベントを提案するためには、その自治体が抱える何を解決できるのかが求められる。今日はこの部分を共有することで、イベント学会の持っているノウハウやリソースを活用できると考えている。



◎「アートゾーンわら工倉庫」の事例

障がい者の労働賃金を一般の人と同様に引き上げたいという思いからイノベーションを起した事例。倉庫をカフェやアートゾーンなどが集まるお洒落な空間に変え、館長が存在しないフラットな関係で人が集まる「場」づくりに成功。この空間での障がい者の雇用促進と労働環境の整備を実現している。

◎「弘前で興すイノベーション」の事例

20 代の女性の視点で伝統工芸の素晴らしさを見直し、地域の伝統工芸品を百貨店への定着化を推進した事例。ワークショップ等を行い、伝統の技術を受け継ぐ 2 代目や 3 代目に新しいコンセプトが芽生えイノベーションを起こした。

◎最近のリサーチ事例より



「O-Labo(オーラボ)まちなか出店支援センター」

シャッター商店街を活性化するために、大分の商店街の中に科学をテーマにした子どもの集まる場を創出し賑わいを取り戻した事例。その他、出店を目指す人のサポート等も実施している。



「フドーキン醤油」

工場の一部をカフェにリニューアルし、人が集まる場づくりに成功した事例。



「宮崎県立図書館」

「生きていくための知恵を」をコンセプトにした図書館。自殺率の高い社会問題を解決するために、生きるための知恵や希望を与えるためのリニューアルを実施。ビジネス書の充実や起業支援をするシステムなども導入している事例。



「南三陸町の起業支援のコミュニティ施設」

復興の障害となる建築資材等の高騰を解消するために考案された、校倉工法のコミュニティ拠点の事例。正倉院を同じ工法を用いることで大幅なコストダウンを実現し、講(こう)の精神で復興にチャレンジする取り組みを紹介。

地域を変えるミュージアム



本書ではミュージアム＝「場」がいかに人々のつながりを変えるかを紹介しているが「場」という言葉をまるごとイベントに置き換えて、イベントの可能性を考えることができる。

「地域を変えるミュージアム」
慶應大学 SFC 研究所

以上

※次回研究会については 11 月末で計画中。後日メールニュース等で連絡。



懇親会

半蔵門「さくら水産」にて11名が参加。
会費は一人 3000 円でした。